



新年のご挨拶

メキシコ・日本アミーゴ会
会長 上原 尚剛

皆様、明けましておめでとうございます。皆様にはご一家お揃いで良いお正月をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

昨年は西日本では豪雨に襲われ、大阪地方及び北海道では激しい地震により多数の犠牲者と共に大きな被害が 出ました。犠牲になられた方々のご冥福を謹んでお祈り申し上げますと共に被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。

近年は地球温暖化の故か豪雨や寒暖の差が激しい等異常な自然現象が頻繁になって来ていますので、皆様におかれましては十分対策を講じられて過ごされ、今年も皆様にとって健康で幸多い年となります様祈念致します。

年頭所感

さて、年頭に当たり私共日本国民にとって本年最大の関心事は何と言っても天皇の生前譲位だと思います。4月30日を以て現天皇が退位され皇太子に譲位される生前譲位が行われる事になり、歴史上でも極めて特別な年になります。ご高齢の天皇陛下は年齢と健康問題を理由に在位 30 年を節目に皇太子殿下に譲位されたい意向を示されて居りましたが、生前譲位は過去においてはかなり頻繁に行われていたものの、直近では江戸時代後期(1817年)に光格天皇が生前譲位されたのが最後で、以後は明治時代には諸事情から皇室典範からも削除されて生前譲位は行われていません。従って現行法では天皇の生前退位が認められていなかった為、天皇のご意向に添うべく政府は一昨年6月に現天皇一代限りを対象とした生前退位を認める特例法案を国会に上程し、衆参両院で可決されて成立しましたので、約200年振りとなる天皇の生前退位への道筋が整いました。これにより政府は新天皇即位の日を今年の5月1日と定め含め4月27日から10日間を国民の祝日として国を挙げて現天皇のこれまでのご苦労と国民に対する暖かいご配慮に感謝すると共に新天皇の御即位のお祝いと末長いご健康を祈念しての休日とする事が決っています。

日本では上述の如く天皇の生前譲位でお祝いの気分が盛り上がって来ていますが、私達の関心が強いメキシコでも昨年は6年の任期満了による大統領の選挙があり、新興左派政党、国民再生運動(MORENA)のロペスオブラドール氏が圧倒的な支持を得て当選し、12月1日に新大統領に就任しました。新聞報道等によれば、大統領就任式でロペスオブラドール氏は「今から急進的且つ抜本的な変革を実行する。汚職を撲滅してメキシコを再生する」と述べ、治安の悪化や汚職が目立つ中で是正を求める国民の期待を背負っての登場ですが、建設中のメキシコ・シティ新空港の工事中止を表明するなど大衆迎合傾向の強い政治手法で経済界との対立も深刻になって来ているとの事です。首都郊外での新空港建設中止に就いては選挙中から主張し、中止に関しては経済界と事前協議するとの約束を反故にして法的根拠の無い「国民への意見調査」を実施して中止意見が多数を占めると直ちに建設撤回を発表した由です。新政権の発表に市場は大混乱し、通貨ペソは一日で3%、代表的な株価指数も4%下落したとの事です。この建設中止でGDPの0.7%相当の費用が掛かると新政権は発表していますが、それだけでなく、新政権が国民への意見聴取を盾に既契約案件でさえ簡単に覆す可能性が出て来たとの懸念が広がっているとの事です。

= 目次 =

1. 新年のご挨拶	アミーゴ会会長	上原尚剛	... 1
2. 新年祝賀メッセージ	臨時代理大使	アルマンド・アリアガ	...3
3. 第2回講演会報告①：「日墨130年：近代の日本とメキシコ」	神田外語大学教授	柳沼孝一郎	...4
4. 私とメキシコ：「10年目を迎えた御宿アミーゴ会の活動報告」	御宿アミーゴ会事務局長	土屋武彌	...6
5. 私とメキシコ：「食の世界遺産 メキシコ料理へのアプローチ 3」	La Casit オーナーシェフ	渡辺庸生	...7
6. お知らせ：「2019年度アミーゴ会総会・懇親会(3月9日)」／『現代メキシコを知るための70章』／あとがき			...8

メキシコ経済省の発表によりますと、ロペスオブラドール氏が当選した直後の7～9月期には外国からの直接投資額は前年同期に比べ30%近くも減少しました。6年間の在任中に毎年4%の経済成長を約束すると強気の姿勢ですが、中央銀行たるメキシコ銀行が集計する民間金融機関の2019年の成長見通しは2%台にとどまって、メキシコ銀行総裁は11月末の記者会見で「新政権の経済政策で不確実性が非常に高まっている」と指摘しています。

公約では大型インフラ投資に加え、年金倍増などバラマキとも見える政策が多く、財政規律維持への懸念も出て来ているとの事です。ロペスオブラドール氏は「公約は全て予算に盛り込む」と言う一方、「歳入は歳入の範囲内に抑える」とも主張しているが実現性は不透明と見られています。

この様な状況下、メキシコは目下中米からの移民集団を巡って米国との関係でも難しい問題を抱えています。米国は国境閉鎖も辞さない方針で、ロペスオブラドール氏は中米移民に就業ビザを発給してメキシコ国内で受け入れる事を考えている様ですが、地元の新聞によるとメキシコ国民の52.8%がこの方針に反対しているとの事です。

米国との関係で前政権時代から問題になって居たのがNAFTAを巡る交渉でしたが、これは11月30日にアルゼンチンのブエノスアイレスで米国、メキシコ、カナダ3か国首脳がNAFTAを改定した新協定、米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)に署名し、これによって全加盟国の議会の承認(批准)を得て発効する事になりました。

この改定により米国とメキシコは再交渉の争点だった自動車の原産地規制について、現地調達比率を現行の62.5%から75%に引き上げる事で合意しています。両国はまた部品の40%～45%を時間当たり賃金が最低16ドルの工場で生産することを合意し、米国製の鉄鋼、アルミニウム、ガラス、プラスチックの利用を増やすことも義務付けています。

この新たな協定のもとでメキシコ新政権がどの様に対応して行くのか、またメキシコに進出している日本の自動車産業を始めとする日本からの進出企業はどの様な影響を受けるか、現状では予測出来ず、今年はメキシコ経済の動きから目が離せない状況になっています。

昨年1年の活動

アミーゴ会は昨年も色々な活動をおこなってきました。まず、総会・懇親会は昨年は場所を変えて3月10日(土)の11:30より14:30まで銀座コリドー街の「Gastro Bar Tokyo-TORO」を会場に開催されました。詳細に就きましては、昨年の「アミーゴ会だより」4月号で詳しく報告されていますのでお読み頂いたと思います。「アミーゴ会だより」は昨年も河嶋幹事のご尽力により1月、4月、7月、10月と4回発行し会の活動状況等を皆様にお知らせしました。

処で、昨年は1888年に日本とメキシコが「日墨友好通商航海条約」を締結してから130年になる記念の年でした。日本はそれまで英国、フランス、ドイツ等西洋の国々と条約を結んでいましたが、何れもそれらの国々の人に対する裁判権が無い、輸入品に適正な関税を掛ける事が出来ない等の日本にとっては不平等条約で、当時の日本政府にとってはこれを如何に平等条約に修正するかが大きな課題でした。日本政府が斯様な条約を廃止してお互い平等な立場の条約を締結したいとの日本の立場をメキシコ政府は理解して、日本にとっては最初の平等条約であり、メキシコにとっては最初のアジアとの条約である「日墨友好通商航海条約」を締結しました。メキシコのお蔭でその後全ての不平等条約を平等条約に改訂する事が出来たのです。

そこでアミーゴ会が最も重点を置いて居るメキシコの歴史・文化に関する講演会は条約締結130年を記念して先ず第一回目に「メキシコ・日本：外交関係の130年」と題してカルロス・アルマーダ大使にご講演頂きました。その内容につきましては、昨年の「アミーゴ会だより」10月号に全文掲載しましたのでお読み頂いたと思います。その後神田外語大の柳沼孝一郎先生による「日本とメキシコ：日墨友好130年の歩み」、明治大学の所 康弘先生の「メキシコと国際貿易～日米との関係を中心に～」、ノンフィクション作家の山本厚子さんの「日墨文化交流のパイオニア～北川民次と佐野 碩～」と全4回の講演会を開催しました。何れの講演も満席の聴衆で埋まり大変好評でした。講演の内容は今後の「アミーゴ会だより」に掲載しますのでお読み頂きたいと思います。講演会に就きましては何時も乍らテーマや講師の選定などに尽力される森幹事のご努力を多としますと共に講演会場としてEspacio Mexicano(エスパシオ・メヒカーノ)をご提供頂き、種々ご助力下さるメキシコ大使館に心から御礼申し上げます。

昨年9月22日～25日には例年通りお台場で第19回Fiesta Mexicana(フィエスタ・メヒカーナ)が開催され、アミーゴ会も協賛の形で参加しました。今回も会場に隣接するホテルグランドニッコー東京台場では期間中メキシコ料理が提供され、大変な混みようだったとの事です。このFiesta Mexicanaは関東地域では唯一の大規模なメキシコのお祭りと言って良く、年々訪問者が増えて居る様で喜ばしい事です。

毎年恒例になって居た会員親睦のゴルフ会は昨年は残念ながら行われませんでした。今年は何とか実現すべく努めますので多くの会員のご参加を期待したいと思います。また、御宿アミーゴ会も今年千葉県勝浦市の国際武道大学に初めてTecamachalco(テカマチャルコ)市からの留学生の入学を世話される等、同市との交流を深めて居られます。御宿アミーゴ会の活動状況に就きましては別項のご報告をご参照下さい。

今年 の 目 標

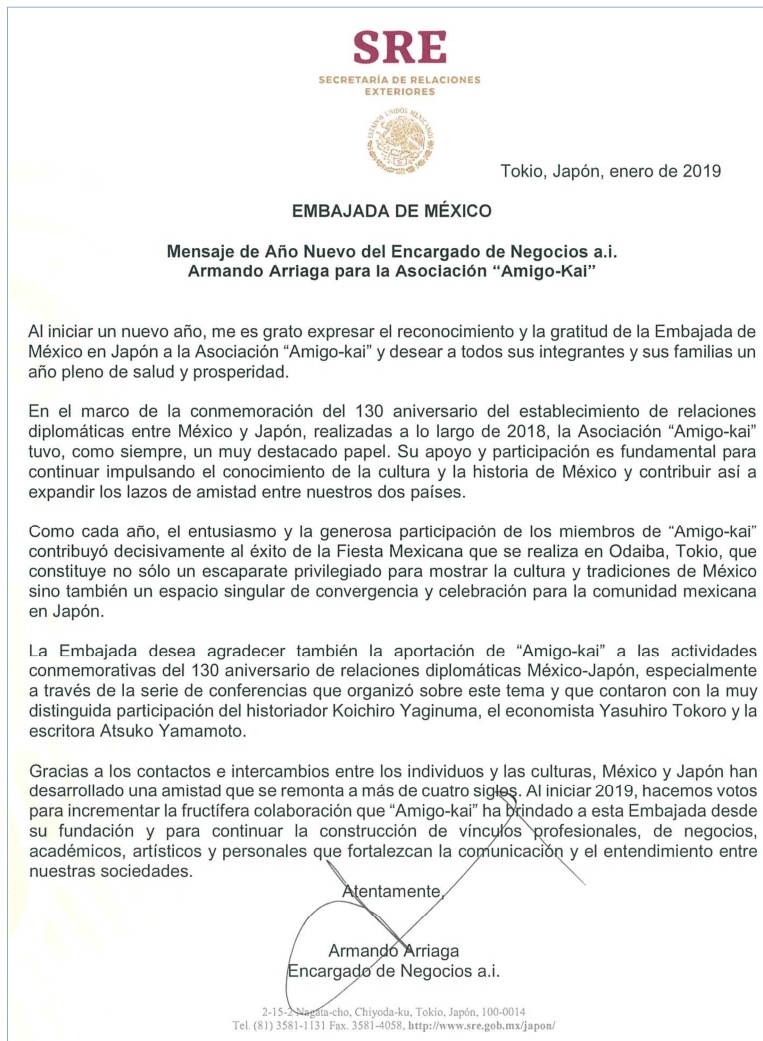
アミーゴ会としましては今年も講演会を始めとして色々な活動を行う所存で、先ず3月に会員総会と懇親会を行う予定ですが場所や日取りに就きましては決まり次第皆様にご連絡しますので是非お出掛け頂きたくお願い致します。「アミーゴ会だより」は今年も例年どおり4回発行する予定ですし、歴史文化講演会もテーマを選んで講師の選定を進める所存です。懇親ゴルフ会も今年には是非実行致したく、近々時期、場所の検討に入り、決まり次第お知らせしますので是非とも奮ってご参加下さい。

昨年は米国のトランプ大統領が北朝鮮の核開発を止めさせるべく金正恩委員長と会談しましたが、新聞などの情報によりますと、その後も核開発は継続しているとの疑惑は消えておらず、日本からの拉致問題も遺憾ながら解決の兆しが見えないままです。加えて日本にも影響が無視できない米中の貿易紛争も絡んで国際情勢は混んとしていますが、斯様な状況下会員の皆様にとりましては今年一年が平穏な年になります様改めて祈念して已みません。

処で、最後になりましたが、このアミーゴ会が2000年9月に発足して今年20年を迎えようとしています。私は前任の利光さんから2004年に会長を引き継いで15年になりますので今年3月の総会を以て退任させて頂く事にし、後任には幹事で現在会長代行を務めて頂いて居る河嶋正之氏にお願いしたいと思っています。就きましてはこれまでの皆様の温かいご支援に対し心から厚く御礼申し上げますと共に後任の河嶋氏に対しても倍旧のご支援・ご協力を賜ります様心からお願い申し上げます事を付記して私の新年のご挨拶とさせて頂きます。(了)

メキシコ・日本アミーゴ会に寄せる アルマンド・アリアガ臨時代理大使の 新年祝賀メッセージ

2019年1月



SRE
SECRETARÍA DE RELACIONES EXTERIORES

Tokio, Japón, enero de 2019

EMBAJADA DE MÉXICO

Mensaje de Año Nuevo del Encargado de Negocios a.i.
Armando Arriaga para la Asociación "Amigo-Kai"

Al iniciar un nuevo año, me es grato expresar el reconocimiento y la gratitud de la Embajada de México en Japón a la Asociación "Amigo-kai" y desear a todos sus integrantes y sus familias un año pleno de salud y prosperidad.

En el marco de la conmemoración del 130 aniversario del establecimiento de relaciones diplomáticas entre México y Japón, realizadas a lo largo de 2018, la Asociación "Amigo-kai" tuvo, como siempre, un muy destacado papel. Su apoyo y participación es fundamental para continuar impulsando el conocimiento de la cultura y la historia de México y contribuir así a expandir los lazos de amistad entre nuestros dos países.

Como cada año, el entusiasmo y la generosa participación de los miembros de "Amigo-kai" contribuyó decisivamente al éxito de la Fiesta Mexicana que se realiza en Odaiba, Tokio, que constituye no sólo un escaparate privilegiado para mostrar la cultura y tradiciones de México sino también un espacio singular de convergencia y celebración para la comunidad mexicana en Japón.

La Embajada desea agradecer también la aportación de "Amigo-kai" a las actividades conmemorativas del 130 aniversario de relaciones diplomáticas México-Japón, especialmente a través de la serie de conferencias que organizó sobre este tema y que contaron con la muy distinguida participación del historiador Koichiro Yaginuma, el economista Yasuhiro Tokoro y la escritora Atsuko Yamamoto.

Gracias a los contactos e intercambios entre los individuos y las culturas, México y Japón han desarrollado una amistad que se remonta a más de cuatro siglos. Al iniciar 2019, hacemos votos para incrementar la fructífera colaboración que "Amigo-kai" ha brindado a esta Embajada desde su fundación y para continuar la construcción de vínculos profesionales, de negocios, académicos, artísticos y personales que fortalezcan la comunicación y el entendimiento entre nuestras sociedades.

Atentamente,
Armando Arriaga
Encargado de Negocios a.i.

2-15-2 Nagatsuta-cho, Chiyoda-ku, Tokio, Japón, 100-0014
Tel. (81) 3581-1131 Fax. 3581-4058, <http://www.sre.gob.mx/japon/>

新年の初頭にあたり、在日メキシコ大使館を代表し、「アミーゴ会」の皆様にご挨拶申し上げます。2019年を通じて、会員各位のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

2018年には、「メキシコ日本外交関係樹立130周年」に因み、様々な祝賀行事が催されましたが、「アミーゴ会」の活動は特筆に値し、我々がめざすメヒコ（メキシコ）の歴史や文化の普及、友好関係の拡大強化の活動において、不可欠の存在です。

昨年「フィエスタ・メヒカーナ in お台場Tokyo」にも多数の会員諸氏に意欲的なご参加、ご協力を賜りました。そのご支援もあって、同イベントは大成功をおさめました。この催しは、我が国の誇る文化や伝統を日本の皆様を紹介する重要な機会であるとともに、日本在住のメヒカーノス（メキシコ国民）には年に一度同胞と再会する貴重な場となっております。

また、「日墨修好通商航海条約締結とその後の交流について」を主テーマに開催していただいた歴史文化講演会の4回シリーズでは、当方のアルマンド大使が初回の講師を務めた後、史家の柳沼孝一郎氏（神田外語大教授）、経済学者の所康弘氏（日墨交流会会長／明治大学准教授）、作家の山本厚子氏（元東京農業大学・早稲田大学講師）に、きわめて興味深いご講演を賜りました。

振返れば四世紀以上も前の時代に友好関係が始まり、二国間の交流は、個々の国民から両国政府までの様々なレベルで維持発展を遂げ、現在に

至っています。2019年を始めるに際し、「アミーゴ会」の創設以来、当大使館に賜っておりますたゆまぬご支援にあらためて御礼申し上げます。加えて、ビジネスや学術、芸術や科学技術などの分野で、両国の国民社会を結ぶ協力関係の緊密化に、協同作業の継続強化が実現することを祈念致します。(了)（メキシコ大使館記）

日墨友好の潮流

「近代の日本とメキシコ」

日墨修好通商航海条約130周年にむけて

～日墨条約の歴史遺産～

神田外語大学 教授（副学長） 柳沼孝一郎

織田信長から豊臣秀吉そして徳川家康の時代、いわゆる大航海時代のスペインおよびその植民地ヌエバ・エスパーニャ（Nueva España「新スペイン」の意味、現在のメキシコ）そしてポルトガルと日本の交渉関係は鎖国政策によって途絶えていたが、明治7（1874）年に来日した「メキシコ金星天体観測隊」（フランシスコ・ディアス・コバルビナス隊長の他、中央天文台台長のフランシスコ・ヒメネス、記録係のフランシスコ・ブルネス、写真係のアグスティン・バローソさらに測量技師のマヌエル・フェルナンデス・レアルで編成）を機に再開された。外務卿の寺島宗則は、地理学者で勸業省官房長の職にあったコバルビナス隊長と早々に会見、両国間の外交関係が樹立されていないことに遺憾の意を表し、日本市場で大量に使用されているメキシコ銀について述べ、外交関係が樹立された場合の相互利益について指摘した。当時、メキシコ銀貨いわゆるメキシコ・ドル（洋銀）は東洋市場で広く流通していたが、コバルビナスは、日本からの陶器や絹織物などの輸入、メキシコからは銀のほかに鉱物類や砂糖や小麦などの穀物類の対日輸出の将来性など、友好通商条約が両国にもたらす利について言及した。



コバルビナス著『金星天体観測日本旅行記』

メキシコ観測隊はその後、明治政府からあらゆる便宜を受け、横浜の野毛山と山手に観測所を設置して観測を実施できたが（フェリス女学院敷地内には「観測百周年記念碑」がある）、帰国後にコバルビナス隊長は報告書『メキシコ金星天体観測日本旅行記』（大垣貴志郎・坂東省次訳、雄松堂出版、1983年）を著し、急速な発展をとげる近代日本を考察・分析したうえで、日本人がいかに勤勉で礼儀正しいかを強調し、日墨間の直接貿易および日本人のメキシコ移民の導入による両国の利益を説き、両国間の外交関係の樹立を力説した。



メキシコ金星天体観測隊
中央がコバルビナス隊長

メキシコに有益であることを強調した。

メキシコが「墨日通商条約」の締結を提案



野毛山観測所

一方、ヨーロッパ諸国に勤務していた外交官のアンヘル・ヌニェス・オルテガは1875年、スペイン植民地時代のヌエバ・エスパーニャ副王府と幕府の関係を論じた研究書『17世紀における墨日政治通商関係史』を著した。これらを機にメキシコ政府内に日本との通商関係を樹立

する案が構想され、東洋物産およびアジア人労働者移民を輸送するための「メキシコ太平洋汽船会社」が設立されて、日墨条約案が醸成されていった。

条約改正が着手されて間もない頃、1882年9月21日に米国国務省内で、臨時代理公使の高平小五郎はメキシコ公使マティアス・ロメロと会談する機会があった。ロメロ公使は、慶長年間に伊達政宗が派遣したローマ使節一行の支倉常長遣欧使節がメキシコに逗留したことなど、当時の日本とヌエバ・エスパーニャの交流について触れ、メキシコと日本の条約締結を打診した。その一週間後、ロメロ公使は前述のヌニェス・オルテガの著書を高平代理公使に送付し、条約締結についてメキシコ政府の正式な申し出として文書で提示した。

スペインからの独立後、「アメリカ・メキシコ戦争」（米墨戦争1846～48年）の敗北による広大な領土喪失やフランス・イギリス・スペインの三国干渉戦争によって農鉱業の基幹産業が衰退していた状況を認識していたコバルビナスは、拓殖事業には外国人移民が必要であり、産業の開発と振興には船舶および鉄道の拡充が必至と考え、太平洋と大西洋を繋ぐ「テワンテペック地峡横断鉄道」の建設を唱えた。とりわけ日本人のメキシコ移民を重視し、勤勉で控え目な日本国民は教育によって秩序と法を尊ぶ精神をそなえ、日本人コロニーは健全な模範としてメキシコ国民に示すことになるだろうと日本人移民がいかに

日本外務省はただちに検討に入ったが、欧米諸国との条約改正の折衝中という状況から、条約改正(平等条約の締結)が達成されるまではいかなる国とも新たに条約は締結できないという結論であった。

ロメロ公使は1883年にワシントン入りした特命全権公使の寺島宗則にメキシコ政府の意向として、欧米諸国の政府が日本政府から獲得した権益を求めずに日本と条約を締結する用意があることを表明し、同条約は日本が過去に締結した著しく日本国に不利な条約を破棄するための前例ともなることを改めて強調した。ところが明治政府の条約改正交渉が決裂し、条約改正会議は無期延期となり、メキシコ政府からの申し出は立ち消えになってしまった。

最初の「平等条約」を締結 1888年(明治21年)

こうした時にメキシコ政府から、在メキシコ前公使でもあった駐日ベルギー王国特命全権公使ジョージ・ナイトを通して、再度、条約締結の申し出があった。外務大臣の伊藤博文は早々に、最恵国待遇を基本とした条約締結の交渉に着手した。外務大臣に就任した大隈重信はさらに日墨条約を再検討し、米国に赴任する特命全権公使の陸奥宗光に対してロメロ公使との折衝を訓令、こうして条約締結に向けた直接交渉が開始された。

そして折衝のすえ「日本国の法権に服する条件の下にメキシコ国民に対し日本の内地を開放する」という日本側からの提案を明記した「機密特別条款」が決め手となり、1888年(明治21年)11月30日、米ワシントンにおいて陸奥宗光とマティアス・ロメロの両国特命全権公使の間で「日墨修好通商航海条約」が調印された。

この日墨条約は11条から成っているが、第4条には「日本国に渡来するメキシコ国民に付与する特権は、皇帝陛下(天皇)の領地および所屬地に滞在居住し、同所において製造品および各種商品の卸売り、小売営業およびその他一切合法の職業に従事する特権を以てす」と、メキシコ国民に日本の内地開放が明記された。

当条約は相互に治外法権と関税自主権の拘束を認めず、相互に内地を開放することを規定した画期的な条約であり、日本が達成できた最初の完全対等平等条約であった。明治政府が置かれていた極めて厳しい外交上の立場を理解し、日墨条約の実現に労を惜しむことのなかったメキシコ政府の政治姿勢は高く評価されてよい。同条約は日本政府が列強国と再交渉する足がかりとなり、明治政府の悲願であった条約改正が達成された。

ディアス大統領のメキシコは当時、外国資本を積極的に導入し、未開地の開拓のため殖民政策を展開し、鉱山、コーヒー栽培地、砂糖耕地、綿花産地を



開発し、港湾と連結するための鉄道を建設して未曾有の経済成長を遂げていた。一方、当時の日本には農村部や都市部の経済的に困窮する国民の救済問題や、狭い国土に加えて急増する人口問題が顕在化し、その解消策として「海外殖民」が唱えられ、国家事業として推進された。

その端緒となったのが「日墨修好通商航海条約」であった。日墨条約は、開国後に急進的な近代化を計る日本と、スペインからの独立後の混沌とした時代を経て、共和国復興ののちに政治的安定を確立し、国内経済活動の活性化・財政再建などを経て近代化を展開させていたメキシコの両国の同時期的な史的背景と発展過程のなかで推進され、相互に治外法権を認めず、両国民がそれぞれの国の法権に服する条件の下に、相互に内地を開放することを規定した画期的な条約であった。

榎本殖民団の入植 1897年(明治30年)

条約が公布されて間もなく、建野郷三が特命全権公使としてディアス大統領に信任状を奉呈、同時に日本国領事館が開設され、他方、メキシコ特命全権公使のホセ・マルティン・ラスコンは日本国天皇に謁見、こうして両国の外交官が交換され日本とメキシコの両国関係は新たな時代を迎えた。

海外移民奨励策によって農鉱業の振興を計っていたディアス大統領は日本人植民に好感を抱き、メキシコ天体観測隊の測量技師であった農商務大臣(当時)のフェルナンデス・レアルは、コーヒー栽培に就業する「日本人殖民地」を、チアパス州ソコヌスコ郡エスキントラ周辺の6万5000町歩の官有地に誘致するべく奔走した。

こうして両国の政府間で実施されたのが1897年(明治30年)の「榎本武揚メキシコ殖民団」であった。

その後も日本から、メキシコ南部のコーヒー・プランテーションやオアハケーニャ砂糖耕地または麻栽培地あるいは麻製造工場、中部の鉄道敷設工事、北部のラス・エスペランサ炭鉱やフエンテ炭鉱さらにボレオ銅山などに1万人以上もの日本人労働者が「契約移民」として、「熊



本移民会社」や「東洋移民会社」、さらに「大陸殖民会社」などの移民会社の斡旋でメキシコに渡り、現在のメキシコ日系社会の礎となった。

日墨修好通商航海条約はまさに日墨外交の歴史遺産レガシーといえよう。(その1 完)

10年目を迎えた御宿アミーゴ会のご報告

御宿アミーゴ会 事務局長 土屋武彌

お陰さまで御宿アミーゴ会は平成 21 (2009) 年 12 月 24 日の設立より 10 年目を迎えることができました。「会員自らが考え、実行し、自分たちの活動が形になるか。走りながら進もう。」をモットーに、気がつくとき今日に至っています。関係の皆様にはこの間多大なご指導を賜りお礼を申し上げます。

スポーツと文化の学校を拠点に交流拡大

さて、当会は平成 30 年には、次の活動を実施しました。第 1 に、姉妹都市のテカマチャルコ市に平成 29 (2017) 年 8 月、民間の協力により設立した「スポーツと文化の学校」(以下、学校) が順調に運営できました。この学校は「スポーツは平和な社会を作り、ことばは世界を広くする」を目指す思いを込めた学校です。双方ともに言葉の不自由さを乗り越えて、互いに心の通うことを支えとして開設した学校でした。

テカマチャルコ側より 70%の準備状況との知らせが届いたとき初めて開校 GO を出しました。次は、御宿がメキシコに行き、集まった生徒や両親の表情を見たとき、筆者は安心した気持ちを挨拶にしました。信頼で開設した学校の関係者及び生徒たちの期待に感謝するばかりです。

文化コースの日本語講座は日・墨 2 人の教師が 2 クラスに分けて 50 人の生徒を現地指導し、日本文化と日本人家庭での生活体験は来日 (希望者のみ) しての御宿アミーゴ会員のホストファミリー宅で実施しています。日本語検定試験はメキシコ、日本のいずれかで受験できます。一人の生徒には両親や姉妹・兄弟が帯同し来日するので、ホームステイは 4 人位の受入れをする対応を要します。



国際武道大学に空手留学が実現



スポーツコースの空手道は、テカマチャルコ市の空手道場の生徒たちが日本語を学びに学校に通い、現地の先生 (師範) の推薦により来日し、国際武道大学の協力により、日本での研修トレーニング (許可制・短期型) と留学 (受験制—給費制度あり・1 年以上) も可能になりました。大学に提出する申請書類は日本語と英語に限定されているので、大学国際室の窓口業務には御宿アミーゴ会が協力しております。

平成 30 年には研修生が同大で空手を 3 カ月間学び、次いで 11 月には留学合格第 1 号が発表され、今年 4 月にテカマチャルコ市からの留学生が誕生します。留学生はキャンパス内の松前国際記念会館で生活できます。別途、長期留学期間の日本語習得には (本人の希望により) 御宿アミーゴ会が協力することになります。



この協力は帰国後の学生がメキシコ国内で日本語検定試験を受験する際の合格サポートシステムです。平成 30 年 12 月には研修トレーニング生 (3 カ月) がメキシコシティで日本語検定試験を受検し、発表を待っているところです。

相次ぐメキシコ観光団の来町

第 2 に、テカマチャルコ市での学校開設 1 年を経過しメキシコからの来日・来町者が多くなりました。御宿町の治安が良く、現地にも安全・安心が伝わったのではないかと思います。また、テカマチャルコ市の学生関係者だけではなく、アカプルコ市、ベラクルス市からの観光団が来日するため、その交流にも参加 (おもてなし) するようになりました。

小学生オリガミ教室を開設

第 3 に、テカマチャルコ市の学校に、小学生を対象にした「オリガミ ハウス」を増設しました。「遊びながら日本文化を知る」の考えを平成 30 年 9 月から始め、現在 80 人を超える児童が通っています。学校は楽しく明るい賑やかな場となりました。

第 4 に、現地の学校からの希望に、国語辞典・漢語辞典・百科事典やマンガ等 200 冊を贈りました。

ドン・ロドリゴと三浦按針を結ぶ民間交流会議

第 5 に、ドン・ロドリゴ (スペイン・メキシコ) と三浦按針 (イギリス) の関係自治体の民間団体交流会議が昨年 2 月に発足し、御宿も参加をさせていただくことになりました。第 2 回交流会議は御宿が開催地で、平成 31 年 1 月 19 日 (土) に「第 4 回スペイン新春コンサート 2019」(御宿公民館で 14:00~)、懇親会 (サヤンテラス・ホテル&リゾートで 17:00~)。20 日 (日) に情報交換会 (同ホテルで 09:00~)、史蹟見学会 (同ホテル発 12:00)、解散 (15:00) を予定しております。

交流団体は横須賀市、伊東市、臼杵市 (大分県)、平戸市 (長崎県)、佐野市 (栃木県) と御宿町です。会の趣旨は、ドン・ロドリゴが御宿に漂着し、三浦按針が造船したサン・ブエナ・ベントゥーラ号でアカプルコに帰国した史実に因む、国内の情報交換会です。

第 4 回スペイン新春コンサートにご来町をお待ち申し上げます。10 年目の御宿アミーゴ会をよろしく願い申し上げます。〈完〉

メキシコ料理へのアプローチ

メキシコ料理店 La Casita
オーナーシェフ 渡辺庸生

日本におけるメキシコ料理のパイオニア La Casita(ラ・カシータ)のオーナーシェフ渡辺庸生さんに、ユネスコ食の世界遺産に指定された多様なメキシコ料理文化の真髄を縦横無尽に語っていただきます。どのようなお話しが飛び出すか毎号のお楽しみです。La Casita の HP:<http://www.lacasita.co.jp/menu/sugerencia/index.html> (編集部)

第9章 師匠・萩原 節さんの思い出

2018年1月末、悲しい知らせが届いた。萩原節さんが24日に亡くなったとの訃報である。思い返せば私の東京での第一歩(1976年1月)は彼の店「ambe」の厨房から始まった。就職を斡旋してくれたメキシコ大使館商務部(当時)のAnibal上原氏との繋がりが無ければ、我が人生は違ったものになっていただろう。二人はメキシコ留学時代からの友人だった。

面接当日、私の緊張を解(ほぐ)すように、にこやかな表情で「期待してるよ、頼むよ!」と肩を軽く叩いてくれたのを今でも覚えている。大使館と目と鼻の先で節さんが営む店は、毎夜、生演奏で本国の曲を聞かせるクラブ形式のライブハウスで、店内は各界の著名人で賑わっていた。それまでのメニューを一新しようと考えていたが、店の運営上オーセンティックなメキシコ料理一本に絞る訳にもゆかず、定番の帆立の和風サラダや鳥賊のホイル焼き、お新香等を引き継ぎながらタコスやエンチラーダを組み入れてスタートした。

中南米の音楽に身を委(ゆだ)ね、酒を酌み交わす中での顧客達の注文は慣れ親しんだ以前のものばかりで新献立は見向きもされなかった。昭和の時代、音楽に関してはトリオ・ロス・パンチョスのおかげで期待感が高まっていたが、料理には全く興味を示されず、コーラスやソロの曲の調べに酔いしれていた。

救われたのは節さんを含むバンドのメンバーが中南米音楽を忠実に再現しようと試みていた姿勢だった。表現者としての私のメキシコ料理に対する一途な思い

第10章 教え子・青木 直行さんの惚れ込み

1976年、夏、渋谷公園通りにラ・カシータを創設して以来、およそ数百人に及ぶ教え子達を指導してきた。中でも印象深く残っている男が一人いる。その名は青木直行。当時、TV番組制作会社のADを勤めていた。

確か1980年の初夏の頃だった。出演依頼を受けた「すばらしい味の世界」は、テレビ東京が高視聴率を誇る料理店憧れの番組だった。一流の店の献立を5~7回に分けて一品ずつ調理工程と出来映えを紹介し、その美味しさと奥義を伝える質の高い内容で構成されていた。まな板の上で鮮やかに食材を切り分ける様や熱したフライパンに肉を置く瞬間の音を集音マイクが最大限に拾い、手元や材料をカメラがどアップで撮って行く。無音で真暗なスタジオではスポットライトの明かりが対象を照らし、調理作業の音だけが響いていた。

7回分、約12時間を要した収録を終え、心地よい充実感に浸りながら帰り支度をしている時だった。青木さんから「すごい感動しました。全部美味しそう!」と感想を頂いた。その時は気付かなかったが相手の気持ちの中に変化が生まれていたのである。

を理解し、同志と認めてくれた状況が生まれていた。調理場に籠る私に彼らは「いつか判るよ、頑張れ」と優しく声をかけてくれた。初期リーダーでロス・インディオスを結成していたが、事務所の方針がラテンムード歌謡に移行して行く中、グループを他の仲間へ託して自己の表現を求めた節さん、きっと心のどこかで私の遠い未来を応援してくれていたはずである。

たった半年の勤めで義理を欠いたが、渋谷公園通りにラ・カシータを開業してからも、早朝野球に誘ってくれたり、イベントで会うと、満面の笑みで「ようせい!頑張ってるか」とハグされた思い出が深く心に残っている。本国でハラミステーキが流行った時も、作り方を教えて欲しいと連絡があったり、教室にスタッフが顔を見せた時もあった。身体の調子が良くないと噂には聞いていたので気にはしていた。そう言えば「ambe」にいた時、常連客のビストロ開店祝いでわざわざ静岡まで連れて行ってくれた。全て美味しく頂いた料理の感想レポートを帰りの新幹線で依頼され、提出したら「上出来だ!」と誉めて貰った記憶がある。きっと料理人としての資質を計られていたのかも知れない。私の生き方を見守ってくれた節さんには心からの感謝しかない。合掌!



後日、料理名とナレーション説明の確認に店を訪れた彼の口から意外な言葉を聞かされる。「僕、この店で仕事がしたいんです、お願いします…」驚いた、余りにも突然の出来事にしばし呆然である。

聞けば、これまで、数々の調理人の方々の料理と技術を見て来たが、メキシコが披露する独創性、シンプルなレシピが醸し出す味の妙味、歴史的背景が映し出す奥深さ、そして何よりもラ・カシータのスタッフ達の熱意と開拓精神に魅入られてしまったとの事。是非、仲間に入れて下さいと頭を下げられては断る理由は無かった。包丁を手にした経験は無かったが、持ち前の器用さで上達も早く、2年も過ぎた頃には仕込みも出来るようになっていた。性格も明るく冗談も好き、前向きで好奇心旺盛な青木さんは、正に店に似合いの存在だった。

1987年末、地上げ屋来襲の折、ラ・カシータが閉店、解散を余儀なくされたのを機に青木さんはメキシコへ旅立ち、半年間、各地を巡り見聞を広めていた。帰国後、かつて大阪万博が行われた会場の近く、千里中央

に「EL PICANTE」の名で店を構えたが、残念ながら3年ほどで閉じてしまった。教え子の初めての独立だったが、関西はアメリカメキシコ料理への依存度が高く、中々、殻を破るのは難しかったに違いない。現在は定職に就き、東京に出張があると顔を見せてくれ、相変わらずの人柄で昔話に花が咲く。因みに、グアテ

第11章 メキシコ流ステーキと牛肉通・寺門ジモン

メキシコ北部のソノーラ州、ここで生産される牛肉は国内でも定評があり、特にARRACHERA(アラチャエラ)と呼ばれるハラミ肉のステーキや網焼きに人気が集まっている。勿論、全ての部位が様々なレシピで調理されてゆくのだが、本国に限らず海外では赤身肉のほうが好まれているようだ。最上級の柔らかい霜降り肉が珍重される我が国の肉食文化は、特殊な例であろう。

昭和の時代、牛肉を提供するホテルやレストラン、ステーキ店等では松坂や神戸などのブランドや等級で顧客の満足度を確実に捉えて来た。半端な肉は出せない代官山に店をオープンした1978年、メニューに組み入れたフィレ肉のステーキは黒毛和牛のA-4クラスを使用することにした。見栄があった訳では無い。当時、ジャンクフード的なメキシコ料理へのイメージを一掃するには、美味しさの感動に気付いて貰いたかったからである。

玉ねぎやニンニク、人参等の香味野菜をサラダ油に3日間漬け込み、塩だけの調味で焼いた肉にそのオイルを刷毛で上塗りしただけの皿は来店客の度肝を抜いた。この手法は最初の修業先アシエンダ・デ・ロス・モラレスで習得したものであったが、バターや醤油に慣れた日本人への挑戦でもあった。スパイスの香りや辛さに期待した彼らは驚き、「ソースは無いの?」と当然聞かれた。「ありません!」。

若さが優先した強引な賭けだったが、振り返るとよく通用したものだと今更ながら思う。盛り付けには洋

マラで出会って結婚した彼の奥様は、私の学生時代からの語学友人(シアトルのワシントン大学、東洋美術史教授)MICHIOさんの妹である。人生の歩みの中で縁に贈られたシナリオは不思議であり、感慨深いものがある。

食界で通称「ガロニ」と呼ばれる3色の調理野菜を添え、一品料理としての存在を示し、タコスだけの軽食ばかりじゃ無いと主張していた。

食材のレベルに助けられたのか、意外に少しずつファンは増えて行った。その中の一人に寺門ジモンがいた。月に1~2度、このステーキを目当てに訪ねて来ては「いいね!美味しいね!」とご満悦だった。最近では牛肉のオーソリティとして名を知られているが、この頃には予想もつかなかった。

あれから30数年、現在、店にこのメニューは無くなったが、彼との親交は続いている。美食を追い求める姿勢は変わらず、何度も雑誌やTVの取材でラ・カシータの料理を取り上げてくれたところ、沢山のファンが個々に来店し、「寺門さんと同じメニューで・・・」と注文してくる。報告すると、良かったねと我が事のように喜んでくれた。

ある日、彼と人生の話題になった時、おやっさんのように真っ直ぐ使命を持っている人を見てると、自分も目標を持つことにした。お笑いも大事だが、ここ数年志村師匠の元で芝居を勉強していると吐露された。本業以外にも執筆やイベント出演等、多忙を極めている中、趣味も多彩で、私なんかの何倍も活躍している彼が、店に居ると素に戻るようである。先日も、「だいぶ丸くなりましたね、旧山手通りの頃よりは・・・」と笑みを浮かべながら、大好きな海老のにんにく炒めをトルティージャと共に食していた。

(連載第3回 完)

お知らせ (予告)

メキシコ・日本アミーゴ会 総会・懇親会

2019年度のメキシコ・日本アミーゴ会総会および懇親会を下記の通り開催すべく諸般の準備をすすめています。幹事会で詳細決まり次第、アミーゴ会員の皆さまにメルマガ・郵送で確定案内を差し上げます。日程調整をお願いします。お誘いあわせてご出席ください。

日 時：2019年3月9日(土)
総 会：11:30~
懇親会：12:00~14:00

会 場：ラ・カシータ (La Casita)
(渋谷区代官山町13-4 セレサ代官山2F
- 東急東横線 代官山駅 歩3~4分)

懇親会費：5,000円/人
(当日、会場受付でお支払いください)

私の本棚：新刊書の紹介

『現代メキシコを知る70章(第2版)』

国本伊代 編著 2019年1月10日発売
明石書店刊 358ページ 2,160円(税込)

編者は若手執筆者も参加し「21世紀のメキシコ紹介」に注力と。主な内容：現代メキシコへの招待/21世紀の社会改革/国際政治とメキシコ外交/国境の壁で分断されるメキシコと米国/資源大国の経済運営/21世紀のメキシコ社会/21世紀のメキシコにおけるビジネス環境/メキシコにおける日本企業/魅惑の文化大国メキシコの姿/21世紀の日本とメキシコ。わくわくしますね。(編集部)

あとがき：新年おめでとうございます。本誌もいよいよ創刊10年目に突入。支えていただいたアミーゴたちに感謝感謝。アルマーダ大使が昨年末に帰任され、アリアガ臨時代理大使が新年のメッセージをお寄せくださいました。AMLO新政権は順風と逆風の吹き荒ぶ門出ですが、新大統領のメキシコ市長時代の実績を知る小欄は世間が指弾するほどの急進左派でも大衆迎合でもない理解。アキレス腱は国会多数与党の一年生議員団か。懸案のNAFTA再交渉も決着。事業環境の大枠も固まり日本企業の新展開に期待大。【20190107か】